

工業化における政府と国際機関の役割 ― 近世～現代

平成 25 年 4 月 26 日受付

玉 木 俊 明*

要 旨

ここでは、現在のベトナム経済と近世のポルトガル経済を取り上げ、両国の経済成長と工業化における政府の役割と、ベトナムの工業化における国際機関の重要性を示そうとしている。国家ないし国際機関のバックアップがなければ、工業化は成功しないと考えられる。

キーワード：国家、国際機関、公共交通機関、砂糖、大西洋経済

1. はじめに

平成 24 年度は、ベトナムとポルトガルにおける、経済成長と工業化における政府と国際機関の役割についてとくに研究をした。前者に関しては、現代的なトピックを扱い、後者については、歴史的経緯をたどった。

2. ベトナム

平成 24 年 8 月 1 日から 4 日にかけてハノイで資料収集をおこなった。ベトナムは、日本が今後経済交流をもっとも促進しなければならない国の一つであり、その実地状況について学んだ。

ベトナムには、周知のように日本企業が多数進出している。中国の人件費が高騰し、もはや安価な労働力を確保できない状況にある現在、ベトナムへの経済援助の必要性はきわめて大きい。ハノイ空港の近郊には、「工業団地」という立て看板が掲げられており、日本の企業がさらに進出をくわだてようとしていることがよくわかる。

しかしまた、そのために、大きな問題があることも否定できない。たとえばベトナムの電気代は、日本のそれとあまり変わらず、かならずしも安価に製品を生産できるとはかぎらない。メコン川では雨期と乾期の降水量の差が激しく、そのためダムによる発電が安定しないからである。この点を克服しない限り、ベトナムが「世界の工場」になることは難しいかもしれない。

またベトナムの、公共交通機関の発達は非常に遅れている。これは、同国のみならず、シンガポールを除く多くの東南アジア諸国にみられる特徴でもある。元来、工業化には、公共交通機関の発達は欠かせない。たとえば、イギリスの産業革命に、鉄道網の普及が大きく寄与したことはいうまでも

* 京都産業大学経済学部

ない。

残念ながら、ベトナムはそのような行程をたどって経済成長を実現しているのではない。それは、アジアの多数の国々に共通する姿でもある。現在は見過ごされがちであるが、今後の賃金の上昇を視野に入れるなら、そして多数の商品の輸送コストの削減を考えるなら、とくに市内の交通の混雑緩和は急務であると考えられるが、それは現在のところ成功していない。

この問題が生じたことについては、ベトナム政府によるインフラストラクチャーへの投資不足が大きな要因となっている。工業化においては、通常、政府が民間企業では提供できないファンダメンタルズを整備する。だが、ベトナム政府の状況では、そこまでのことができていない。それを補完する意味でも、世界銀行など、国際機関による支援が必要とされる。

この点においては、日本も大きな役割を果たし、すでにメコン川沿いに大きな道路を建設している。しかし、韓国や中国はそれ以上に大きな道路を建設しており、日本の遅れは否めない。今後、より多くの資金を投入し、ベトナムのみならず、東南アジアの工業化に貢献すべきだと私は考えるが、日本がそのための資本を投入できるかどうか、現在の財政状況からはなんともいえない。

3. ポルトガル

ポルトガルは、日本が初めて出会ったヨーロッパ人である。ポルトガルは近世日本の経済成長に大きなインパクトを与えたが、その後、両国の関係はあまり強くないまま現在に至っている。たしかにポルトガルの経済力は小さいが、今後日本がブラジルとの関係を強化しなければならないとすれば、ポルトガルとブラジルのコネクションの強さを利用しなければならないであろう。また、近世に大航海時代を切り開いたポルトガルは、どのようにして経済衰退をしたのかという研究は、日本の経済衰退の研究にも大きな影響を与えるはずだと考えられよう。

ポルトガルの海外進出は、本格的には15世紀にはじまったが、それは一人一人の商人が自分たちで組織化したグループによって成し遂げられたのであり、政府の力はあまり強くなかったことが、現在では広く知られている。それどころか、ポルトガルの海外発展における政府の役割は、これまで想定されて来たほどに強くはなかった。

ポルトガルの貿易は、アジアにおいてもヨーロッパにおいても、18世紀末に至るまで、非常に長く続いており、量も多かった。これは、ポルトガル国内で、最近わかってきた事実である。ポルトガルは長期にわたり繁栄し、19世紀になって衰退したと考えられる。

ポルトガルは、他国に先駆け、奴隷貿易を開始した。ポルトガルの奴隷貿易数は、他のどの国よりも多く、わずかに18世紀のイギリスがそれを上回っただけであり、これまでのイギリス中心の奴隷貿易の姿は、完全に捨て去られるべきであろう。

ポルトガルはまず16世紀にサン・トメ島と世マデイラ諸島で奴隷労働によるサトウキビプランテーションを実現させようとしたが、それには成功したとはいえない。しかし植民地ブラジルでサトウキビプランテーションの形成に成功し、ブラジルの砂糖は、アントウェルペンを通じて、ヨーロッ

パ各地で流通するようになった。そのため、ポルトガル経済は大きく栄えることになった。

しかも、ブラジルにおけるサトウキビ栽培の手法は、やがてポルトガルからオランダに逃亡したセファルディム（イベリア系ユダヤ人）の手を通して、オランダ領、フランス領、イギリス領の西インド植民地に移植されることになった。

すでに我が国では、川北稔により、18世紀イギリスの大西洋帝国は、西アフリカから新世界に連れて来られた奴隷による砂糖プランテーション労働を基軸として成立していたことが述べられている。このような図式は、近世のポルトガル、フランス、オランダ、さらに19世紀のスペインにもあてはまった。このシステムの先駆けとなったのがポルトガルであり、大西洋諸経済の形成は、ポルトガルの先導によって成功したのである。

そのポルトガルが没落したのは、これまで考えていたよりもずっと遅く、19世紀になってからのことであった。イギリスと異なり、中央政府の力が強力ではなかったのが、イギリス帝国のような凝集力をもつ帝国を形成できなかったのが、最大の問題であった。さらに、ナポレオン戦争後、ブラジルの砂糖は宗主国であるポルトガルではなく、直接ロンドンやハンブルクに輸送されるようになった。そのため、ポルトガルとブラジルの経済的紐帯は大きく弱体化し、ブラジルの独立を招くことになった。

イギリスのように強力な国家のバックアップがあったなら、いや、それが可能であったなら、ポルトガルはさらに長く繁栄できたかもしれないのである。

4. おわりに

ここで述べられたのは、現代のベトナム経済と、近世のポルトガル経済にすぎない。しかしどちらの事例からも、経済成長や工業化における政府の重要性がわかったはずである。さらにベトナムの場合、国際機関の役割が大きなポイントとなることも、明らかである。

参考文献

川北稔『工業化の歴史的前提 ― 帝国とジェントルマン』岩波書店、1983年。

玉木俊明『近代ヨーロッパの形成 ― 商人と国家の近代世界システム』創元社、2012年。

<http://www.slavevoyages.org/tast/index.faces>

The Role of the Governments and International Institutions : From Early Modern to the Contemporary World

Toshiaki TAMAKI

Abstract

In this paper, I refer to Vietnam economy in the contemporary world and Portuguese economy in early modern period. I will show how important the role of governments for both states' economic growth and industrialization and the significant role of international institutions for Vietnam's industrialization. Without the support of the governments and/ or international institutions, industrialization would not be successful.

Keywords : state, international institutions, public transportation, sugar, Atlantic Economy